

実体経済の動向

◇生産、出荷は3か月連続の減少、在庫は増加

(生産—微減)

7月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は-0.1%と小幅ながら5、6月(各々-1.2%、-0.9%)に続き3か月連続の減少となった(前年同月比+5.8%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

これを財別に見ると、資本財輸送機械、一般資本財が増勢を続け、非耐久消費財、耐久消費財も小幅ながら増加となったが、建設財、生産財は引き続きかなりの減少を示した。すなわち、建設財は、仮需のはく落に加え、官公需、住宅投資等の需要が低調に推移しているところから小形棒鋼、アルミサッシ、セメント等を中心にかなり減少し、生産財も、通信・電子部品、一般機械部品、非鉄金属鋳物等は増加したものの、プラスチック、同製品、洋紙、板紙、アルミ圧延品、鉄鋼素製品等かなりの品目が仮需のはく落等から減少し

た。

一方、資本財輸送機械は、輸出好調の小型自動車や内需好調の軽トラックを中心に大幅増加を示し、一般資本財も、化学機械が反動減となったものの、金属加工機械、特殊産業機械、事務用機械、電子計算機、産業用電気機械等の増加から増勢を持続した。また、耐久消費財はエアコン、電気冷蔵庫等夏物民生用電気機械が大幅減となったものの、小型自動車、軽自動車、二輪自動車が輸出向け等を中心に好伸したことから、全体では小幅増となった。非耐久消費財も飲料、家庭用薄葉紙が減少したものの、家庭用合成洗剤、靴類、たばこ等が前月までの減少の反動もあって増加したため、全体ではわずかながら増加した。

(出荷—減少)

7月の出荷(速報)は-0.9%と、生産同様5、6月(各々-2.8%、-0.6%)に続き3か月連続の減少となった(前年同月比+3.1%)。

これを財別に見ると、一般資本財が3か月連続の増加を示し、資本財輸送機械も前2か月減少のあと増加に転じたほか、非耐久消費財も増加を示したが、反面、建設財、生産財は減勢を続け、耐久消費財も減少となった。すなわち、建設財は、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年		55年		55年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業指数	134.2	137.7	143.4	143.6	143.5	142.2	142.0
前期(月)比	2.0	2.6	4.1	0.1	-1.2	-0.9	-0.1
前年同期(月)比	8.6	9.1	11.4	9.1	8.5	7.4	5.8
投資財	2.6	3.0	3.5	1.3	-0.9	0.4	1.3
資本財	3.3	3.5	4.1	2.6	-0.3	1.3	2.5
同(輸送機械を除く)	2.2	3.2	4.3	2.7	2.0	0.5	0.2
輸送機械	5.0	6.4	4.4	2.3	-7.9	3.9	9.5
建設財	1.1	2.1	1.7	-1.8	-2.7	-4.3	-1.5
消費財	2.5	3.1	5.2	-0.6	-2.1	0.1	0.1
耐久消費財	6.4	4.3	7.8	2.3	1.4	-0.6	0.3
非耐久消費財	-0.4	2.0	2.8	-2.9	-5.0	-0.8	0.4
生産財	1.3	2.2	3.6	-0.1	-0.9	-1.9	-1.5

(注) 通産省調べ。55年7月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年		55年		55年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱工業指数	130.8	134.8	139.2	138.5	137.4	136.6	135.4
前期(月)比	0.8	3.1	3.3	-0.5	-2.8	-0.6	-0.9
前年同期(月)比	7.2	8.7	9.6	6.8	4.9	5.1	3.1
投資財	2.6	3.0	2.0	0.4	1.4	-0.4	0.6
資本財	3.4	4.4	1.5	2.8	4.0	0.8	2.0
同(輸送機械を除く)	3.9	4.3	0.8	2.0	5.0	1.3	0.8
輸送機械	3.2	6.1	0.6	4.8	-1.1	-0.5	6.1
建設財	1.2	1.0	2.3	-4.4	-3.5	-3.4	-1.6
消費財	0.6	2.8	6.1	-0.8	-8.5	2.4	-0.1
耐久消費財	3.1	4.5	8.8	4.2	-2.8	2.5	-3.4
非耐久消費財	-2.3	2.2	3.6	-4.6	-12.3	1.3	1.9
生産財	0.5	2.7	2.7	-1.2	-2.1	-2.1	-2.2

(注) 通産省調べ。55年7月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

仮需のはく落に加え、官公需、住宅投資等の需要が低調に推移しているところから、形鋼、建設用金属製品(鉄骨、アルミサッシ、アルミドア等)等を中心に5か月連続の減少となった。生産財は、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ等)、洋紙(印刷筆記図画用紙、包装用紙等)、板紙(段ボール原紙、白板紙)、非鉄地金(アルミ地金)、同圧延品(アルミ圧延品)などが流通・ユーザー筋の買控えなどから、また普通冷延鋼板、普通鋼冷延広幅帯鋼は輸出の減少や夏物家電製品の生産低調などから、いずれも減少したため、全体では3か月連続の減少となった。また、耐久消費財も小型自動車、軽自動車が増加増等を映じて好伸したほか、ラジオ・テレビ・音響装置も2か月連続の増加となったものの、エアコン、電気冷蔵庫等夏物民生用電気機械が冷夏に伴う売行き不振から大きな落込みを示したため、全体では減少となった。

一方、一般資本財は、化学機械等が減少を示したものの、ポンプ、圧縮機・送風機、事務用機械、電子計算機等が増加したほか、電力投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械も前月減少のあと増加したため、全体では3か月連続の増加となった。資本財輸送機械は、小型自動車、小型トラック(輸出の好調)や軽トラック(内需好調)を中心に前2か月小幅減少のあと、高い伸びを示した。また、非耐久消費財は石油製品が元売りの7月値下げにともなう末端需要の持直しを映じて増加に転じたほか、家庭用合成洗剤、浴用石けん、靴類、たばこが増加となったため、全体でも増加となった。

(在庫—増加)

7月の生産者製品在庫(速報)は+2.3%と5、6月(各々+2.9%、+1.7%)に引続き増加し、同在庫率指数(50年=100)も89.1(前月87.1)と52年12月(89.1)以来2年半ぶりの高水準となった。

これを財別にみると、生産財は仮需はく落の目立つプラスチック(塩ビ等)、同製品、洋紙(印刷・筆記図画用紙、包装用紙)、板紙(段ボール原紙、白板紙)、アルミ圧延品などが増加を続け、有機

薬品(エチレン、プロピレン等)、繊維原料(アクリロニトリル、ポリビニルアルコール)、繊維(綿糸、合繊紡績糸)、合成ゴムなども増加したため5か月連続の増加となった。建設財は小形棒鋼が小幅の増加にとどまり、セメントは減少となったが、形鋼、建設用金属製品(アルミサッシ、アルミドア)、土石製品(コンクリート製品等)が増加を示したため、全体では5か月連続の増加となった。一般資本財は、需要堅調から生産高水準の事務用機械、産業用電気機械、通信機械等を中心に10か月連続の増加となり、資本財輸送機械も小型自動車、普通自動車、軽トラック等を中心にかなりの増加となった。耐久消費財は、輸内需堅調のラジオ・テレビ・音響装置(ラジオ、カラーテレビ、ステレオ)、軽自動車、時計等が減少したものの、夏物民生用電気機械(エアコン、冷蔵庫)が売行き不振を映じて大幅増となったほか、小型自動車、乗用車用エアコン、光学機械・同部品等も増加したため、全体でもかなりの増加となった。非耐久消費財は、天然色フィルム、日用品(軽金属板製品)や売行き不振の飲料等を中心に増加を続けた。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	54年 (期末)		55年 (期末)		55年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉱指数	103.2	105.9	107.3	110.3	108.5	110.3	112.8
工前期(月)末比	2.4	2.6	1.3	2.8	2.9	1.7	2.3
業前年同期(月)末比	1.2	3.8	5.0	9.4	7.3	9.4	11.1
投資財	-0.3	3.7	1.9	8.2	1.7	2.2	2.5
資本財	1.8	2.6	4.2	6.3	-0.1	1.8	2.4
同(輸送機械を除く)	0.3	3.3	5.9	7.5	1.2	1.9	1.2
輸送機械	4.7	1.0	1.6	4.5	-2.0	1.2	4.1
建設財	-3.2	3.7	0.9	10.2	4.4	3.0	1.6
消費財	4.8	8.4	2.6	-3.4	4.5	-0.1	2.3
耐久消費財	6.8	8.0	4.4	-2.4	0.9	-1.9	4.7
非耐久消費財	4.0	6.8	0.8	-4.1	10.3	1.3	0.8
生産財	2.7	-1.9	-0.5	4.7	2.1	2.3	2.2

(注) 通産省調べ。55年7月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

(民間設備投資——機械受注、一般資本財出荷は高水準を持続)

7月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、+0.5%と前月(-0.6%)に引続き横ばい圏内の動きとなったが、前年同月比では+18.1%と高水準を続けている。業種別にみると、非製造業からの受注は-5.1%と農林業を中心に3か月ぶりの減少となった(前年同月比+18.7%)が、製造業からの受注は鉄鋼が著伸したほか、機械、自動車、石油等も増加したため、+3.5%と3か月ぶりに増加となった(前年同月比+17.6%)。なお、電力からの受注は前月比2.2倍と著伸した。

7月の一般資本財出荷(速報)は、+0.8%と3か月連続の増加となった。品目別にみると、化学機械が反動減となったものの、ポンプ、圧縮機・送風機、事務用機械、電子計算機等が増加したほか、電力投資関連の電力・通信ケーブル、産業用電気機械も増加となった。

7月の建設工事受注額(民間分、速報)は+2.0%と前月(+10.7%)に引続き増加を示した(前年同月比+14.3%)。

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	54年		55年			55年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月		
機 需	5,321 (5.9)	5,094 (-4.3)	6,331 (24.3)	7,630 (31.1)	5,542 (-27.4)	6,254 (12.8)		
同(船舶・電力を除く)	4,102 (11.5)	4,290 (4.6)	4,506 (5.0)	4,592 (5.2)	4,563 (-0.6)	4,584 (0.5)		
製 造 業	2,201 (17.9)	2,363 (7.3)	2,634 (11.5)	2,773 (-0.7)	2,336 (-15.8)	2,416 (3.5)		
非製造業	3,109 (-0.5)	2,790 (-10.3)	3,667 (31.4)	4,834 (60.8)	3,159 (-34.6)	3,787 (19.9)		
同(船舶・電力を除く)	1,905 (4.5)	1,923 (1.0)	1,959 (1.8)	1,865 (6.3)	2,257 (21.0)	2,142 (-5.1)		
建設工事受注(民間)	3,532 (1.3)	4,292 (21.5)	4,071 (-5.1)	3,680 (-17.5)	4,072 (10.7)	4,156 (2.0)		

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

◇小売商況は天候不順から総じて低迷

7月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比)は、天候不順による夏物衣料、家電製品等の売行き不振を主因に+6.1%と低調な伸びにとどまった(前年比伸び率としては年初来最低)。もっとも、8月に入ってから、夏物衣料品のバーゲンや、秋物衣料品の早期販売などから、売上げはやや持直し気味となっている模様である。

8月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く、前年比)は前月の夏季ボーナス拡販の反動もあって、-17.7%と大幅な減少となり、4月以降5か月連続して前年水準を下回った。また、家電製品は冷夏が響き、エアコン、扇風機、冷蔵庫等が前月に引続き低調であったものの、ビデオテープレコーダー、電子レンジ、ステレオ等が好調を持続し、カラーテレビも前月に比べ持直した。

◇商況の基調——引続き軟弱

8月の商品市況を見ると、減産本格化に伴う在庫調整の進捗等から条鋼類、天然繊維等一部品目が底入れないし反発したものの、石油製品(C重油、灯油)、製材、紙、石化製品が続落し、月末近くには銅も急反落するなど、大勢としては軟弱な地合いを続けた。

これは、大方のメーカーで減産態勢が維持ないし強化されたにもかかわらず、①住宅投資、官公需の不振(製材、石化製品)や輸出の伸び悩み(合繊、石化製品)、さらには冷夏に伴う需要停滞(C重油—電力向け、段ボール原紙—エア・コン等家電向け)もあって、末端実需が足踏み状態を続けたこと、②流通・ユーザー筋では原材料コスト低下に伴う製品先安観が根強く、これまでの買控え姿勢を続けたこと(紙、石化製品等)など、全般的な需要の盛上り欠如が主たる背景。このほか、③銅については、海外ストの早期収拾見通しの強まりを映じた海外相場の急落が大きく響いている。

卸売物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウエイト	55年		55年				
		1~3月 平均	4~6月 平均	4月	5月	6月	7月	8月
総平均	1,000.0	6.5	4.8	2.7	-0.2	-0.1	0.4	0.7
食料品	140.9	2.3	3.5	1.2	1.4	0.1	0.5	0.6
非食料農林産物	18.9	8.4	-2.0	-0.2	-2.9	-6.0	-1.5	1.3
繊維製品	62.9	2.2	2.6	1.6	0	-0.6	-0.4	0.5
製材・木製品	33.6	6.2	1.4	0.3	-0.5	-2.8	-1.9	-2.3
パルプ・紙・同製品	28.9	11.2	11.1	4.4	1.9	1.2	0.1	-0.6
金属素材	12.6	13.3	-10.3	-4.6	-4.9	-5.3	3.6	0.3
鉄鋼	80.7	2.5	5.7	5.6	-0.9	-1.5	-0.2	0.7
非鉄金属	26.1	23.5	-11.1	-6.8	-5.1	-1.3	1.6	0.1
金属製品	37.0	1.9	5.0	2.4	0.7	1.2	0.8	0
電気機器	73.3	0.6	1.1	0.6	0.3	0	0.5	0.2
輸送用機器	74.0	0.4	0	0.5	-1.2	0	1.3	0.6
一般・精密機器	95.7	0.9	1.6	0.8	0.4	0.3	0.7	0.5
化学製品	91.1	5.3	6.0	3.0	0.7	0.1	0.4	-0.1
石油・石炭・同製品	102.2	22.7	10.1	2.9	-0.4	0.8	-0.3	4.0
窯業製品	30.5	3.5	7.5	2.5	0.8	0.1	1.0	0.5
電力・ガス	25.5	6.2	43.5	41.4	0.3	-1.0	4.8	-0.8
雑品目	66.1	4.8	2.8	0.3	0.2	2.2	0.1	-0.1
工業製品	816.4	5.1	4.3	1.9	0.5	0.2	0.2	0.6
大企業性製品	579.9	4.9	4.9	2.4	0.6	0.3	0.2	1.0
中小企業性製品	214.6	4.0	3.8	1.3	0.6	-0.3	-0.1	-0.3
非工業製品	158.1	12.6	1.5	0.1	-2.5	-1.1	0.5	1.4
国内品	801.9	4.6	5.9	3.1	0.9	0.5	0.3	0.5
輸出品	94.2	2.8	-0.4	1.6	-4.1	-2.7	0.9	1.1
輸入品	103.9	21.0	1.7	1.1	-3.9	-2.6	0.8	2.0

(注) 日本銀行調べ。

(卸売物価——円安等から前月を上回る上昇)

8月の卸売物価は、前月比+0.7%と前月(同+0.4%)をやや上回る上昇となった。品目別にみると、輸出入品とも為替円安を主因にかなりの上昇(輸出入品の総平均に対する寄与度+0.3%)となり、なかでも輸出品では小型乗用車、油井用鋼管(需要好調を映じた値上げも寄与)、輸入品では原油(7月値上げ原油の入着も寄与)、原料炭などの上昇が目立った。また国内品も電力向けC重油値上げ交渉(54年12月~55年6月納入分)の決着(総平均に対する寄与度+0.4%)から、同+0.5%と前月(同+0.3%)を上回る上昇となった。

もっとも国内市況性商品は、製材・木製品、化学製品、パルプ・紙・同製品を中心に前月に続き下落したほか、完成品も資本財、消費財とも低い伸びにとどまるなど、基調としては卸売物価は落着いた動きとなっている。

(消費者物価——8月<東京都区部、速報>は0.2%の微落)

8月の消費者物価(東京都区部、速報)は、季節商品をはじめ食料品が上昇したものの、被服の値下りを主因に前月比0.2%の微落となった。なお前年同月比では、冷夏により季節商品が前年とは様変りに上昇となったことを映じて、+8.5%と

消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

		ウエイト	55年		55年			最近月の 前 同 月 比
			1~3月 平	4~6月 均	6月	7月	8月	
東 京	総合	100.0	2.0	2.9	0.1	0.4	* - 0.2	* 8.5
	季節商品を除く総合	91.9	0.9	4.9	0.7	0	* - 0.4	* 8.6
	(季節商品)	(8.1)	(12.5)	(- 15.1)	(- 5.8)	(4.7)	(* 1.9)	(* 7.1)
	食料	40.1	3.9	- 1.9	- 1.2	1.2	* 0.8	* 6.0
	住居	11.1	1.3	2.3	- 0.1	0.4	0.2	5.4
	光熱	4.2	2.6	38.7	0.1	0.4	0	46.6
全 国	被服	12.4	- 2.1	4.5	1.9	- 1.6	- 4.7	9.4
	雑費	32.2	1.3	4.0	1.0	0.1	* 0.1	* 7.6
	総合	100.0	2.2	3.2	0.3	0.2	...	7.7
	季節商品を除く総合	91.7	1.0	4.8	0.6	0.2	...	8.8
	(季節商品)	(8.3)	(12.7)	(- 9.6)	(- 3.1)	(0.2)	(...)	(- 2.9)
特 殊 分 類	農水畜産物	16.3	7.7	- 5.7	- 2.0	0.1	...	- 0.2
	工業製品	46.6	0.7	4.5	0.7	0	...	8.9
	うち大企業性製品	21.4	2.3	4.0	0.2	0	...	10.5
	中小企業性製品	25.2	- 0.5	4.8	1.0	0	...	7.6
	サービス	33.6	1.4	6.1	0.1	0.3	...	9.4

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *印は速報。

再び8%台乗せとなった。

内訳をみると、食料品は季節商品が冷夏による野菜の出回り減を映じて続騰(前月比+1.9%)し、鶏卵も需要増から2割近い値上りとなった。他方、被服は夏物バーゲンの盛行に伴い婦人洋服等夏物衣料を中心に-4.7%とかなりの下落となった。

◇総合収支は1年10か月ぶりに黒字に転化

7月の国際収支をみると、貿易収支は前月(127百万ドルの黒字)に続き小幅ながら113百万ドルの黒字となったが、貿易外収支の悪化がひびき経常収支は赤字1,030百万ドルと前月(同929百万ドル)に比べ赤字幅をやや拡大した。

この間、長期資本収支が活発な対日証券投資を映じ本年5月以降3か月連続の大幅流入超となり、また、短期資本収支も貿易信用の享受を中心に流入超を持続したこと等から、総合収支は322百万ドルの黒字(前月は収支均衡)と53年9月以来1年10か月ぶりに黒字を記録した。

なお、7月の季節調整後の貿易収支は、輸出入とも小幅ながら減少したなかで輸出の落込みが輸入の落込みを上回ったため、前月比赤字幅が拡大した(427百万ドルの赤字、前月同278百万ドル)。

この間、7月末の外貨準備高は22,793百万ドルと4か月連続の増加となった(前月末比+151百万ドル)。

(輸出—減少)

7月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は-2.0%と4か月ぶりに減少した(原計数の前年同月比は+29.2%)。品目別(通関ベース)にみると、自動車、二輪自動車、テープレコーダー等の機械類が引続き好伸した一方、素材関連品目は鉄鋼、合繊等が米国、イラン向けを中心に依然低調なほか、化学製品は東南アジア向け等を中心に一段と減少した。

なお、8月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は+3.1%と前月(+3.9%)に続き増加した。品目別には、化学製品、自動車が減少したものの、織

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年	55 年		55 年			前年同月
	10～12月	1～3月	4～6月	5 月	6 月	7 月	
経 常 収 支	△ 3,688	△ 5,810	△ 4,626	△ 1,773	△ 929	△ 1,030	△ 939
貿易収支	△ 1,013	△ 2,593	△ 1,368	△ 664	127	113	148
輸 出	27,828	26,718	30,997	10,298	10,807	11,241	8,702
輸 入	28,841	29,311	32,365	10,962	10,680	11,128	8,554
貿易外収支	△ 2,402	△ 2,724	△ 2,860	△ 946	△ 913	△ 1,003	△ 980
移 転 収 支	△ 273	△ 493	△ 398	△ 163	△ 143	△ 140	△ 107
長期資本収支	△ 3,782	609	△ 61	979	1,200	799	△ 379
本邦資本	△ 3,549	△ 2,211	△ 1,806	△ 431	△ 552	△ 830	△ 1,629
外国資本	△ 233	2,820	1,745	1,410	1,752	1,629	1,250
基礎的収支	△ 7,470 (△ 8,070)	△ 5,201 (△ 4,477)	△ 4,687 (△ 4,188)	△ 794 (△ 6)	271 (△ 134)	△ 231 (△ 771)	△ 1,318 (△ 1,770)
短期資本収支	1,169	891	183	334	487	324	421
誤差脱漏	762	△ 1,282	△ 1,119	213	△ 758	229	△ 105
総 合 収 支	△ 5,539	△ 5,592	△ 5,623	△ 247	0	322	△ 1,002
金 融 勘 定	△ 5,539	△ 5,592	△ 5,623	△ 247	0	322	△ 1,002
外貨準備増減	△ 5,008	△ 1,784	4,099	2,489	1,238	151	136
そ の 他	△ 531	△ 3,808	△ 9,722	△ 2,736	△ 1,238	171	△ 1,138
外 貨 準 備 高	20,327	18,543	22,642	21,404	22,642	22,793	25,115
為銀対外ポジション	△ 20,262	△ 23,926	△ 33,627	△ 32,401	△ 33,627	△ 32,939	△ 16,999

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状	輸 出 認 証	輸 入 承 認 ・ 届 出
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入			
54年 10～12月平均	8,825 (+ 2.6)	9,362 (+ 4.8)	△ 537	8,929 (+ 2.4)	10,571 (+ 7.7)	6,892 (+ 6.0)	9,600 (+ 6.0)	11,283 (+ 5.4)
55年 1～3月平均	9,338 (+ 5.8)	9,961 (+ 6.4)	△ 623	9,663 (+ 8.2)	11,188 (+ 5.8)	7,341 (+ 6.5)	10,039 (+ 4.6)	13,209 (+ 17.1)
4～6 〃	10,448 (+ 11.9)	10,738 (+ 7.8)	△ 290	10,645 (+ 10.2)	12,163 (+ 8.7)	7,223 (- 1.6)	11,009 (+ 9.7)	13,621 (+ 3.1)
55 年 4 月	9,823 (+ 5.3)	10,538 (- 0.2)	△ 715	10,146 (+ 7.0)	12,154 (+ 8.1)	7,187 (- 1.6)	10,754 (+ 4.3)	13,860 (+ 8.3)
5 〃	10,585 (+ 7.8)	10,461 (- 0.7)	124	10,879 (+ 7.2)	11,567 (- 4.8)	7,484 (+ 4.1)	10,819 (+ 0.5)	13,850 (- 0.1)
6 〃	10,936 (+ 3.3)	11,214 (+ 7.2)	△ 278	10,909 (+ 0.3)	12,769 (+ 10.4)	6,999 (- 6.5)	11,455 (+ 5.9)	13,154 (- 5.0)
7 〃	10,719 (- 2.0)	11,146 (- 0.6)	△ 427	11,026 (+ 1.1)	12,804 (+ 0.3)	7,271 (+ 3.9)	11,536 (+ 0.7)	13,448 (+ 2.2)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 2. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

維製品、電気機械等は増加した。

(輸入—減少)

7月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は-0.6%と前月大幅増加(+7.2%)のあと再び減少した。品目別(通関ベース)にみると、原油が価格上昇から引続き増加した一方、前月に入着集中の

みられた鉄鋼原材料が反動減となったほか、木材も前月に続き減少した。

なお、8月の輸入承認届出額(特殊大口除外、季節調整済み)は-4.6%と前月増加(+2.2%)のあと減少となった。